

(特非) ゆいツール開発工房 (ラボ)

スマトラ島の森林保全をテーマとしたESD(持続可能な開発のための教育)プログラムの開発~国立公園スタッフの意識啓発と住民支援プログラム等~

クラフトづくり講習会参加者	25人
農業グループに提供した果物の苗木の本数	50本
活動の全体目標に対する達成度	60%



クラフトづくり講習会の様子

◆成果と工夫したポイント

●成果

レマン村の農業グループのメンバーは、はちみつグアバ(ジャンブウ・マドゥ)を植え付け・管理を行っている(47本が生育中)。

レマン村周辺の女性たちがクラブを作れるようになり、ごみ銀行から注文を受けた。

●工夫

住民たちの理解に合わせて、セミナーと講習会を段階的に2回実施した(いっぺんに多くの情報を与えない)。

課題

森林破壊がすすむスマトラ島リアウ州のブキッ・ティガブル国立公園(TNBT)は、公園内に暮らす先住民・地域住民らの活動によって、近年森が切り開かれつつある。

目標

ブキッ・ティガブル国立公園(TNBT)内の先住民等が、森を守ることによって利益を得られる方法を探り、現地NGOや住民らとともに活動を実施することで、住民の生活向上を目指す。

活動内容

●TNBT周辺のレマン村の農業グループを支援する目的で、果物の苗木を提供しセミナーを2回実施した。●レマン村などの女性グループを支援する目的で、プラスチックごみを再利用したクラフトづくり講習会を2回実施した。●4月と10月に、東京でイベントに出展し、ゆいツールの活動をアピールした。●レマン村にて、有機野菜作りを実験した。●リアウ州のいくつかのNGOと交流するために、スタディツアーを行った。



果物の苗木の管理方法のレクチャー

達成できなかったこと

予定していた西バリ国立公園スタッフとTNBTスタッフのシェアリング活動は、9月にスマトラ島で発生した森林火災による煙害のために中止とした。

今後の展望

住民らが自らの取組みにより成果を得ることができ、国立公園の森林にダメージを与える行為を減らす。